

次回予告

ひらく 古典のトビラ 其の8

「木ノ下亭」

日程 2027年2月11日（木・祝）
会場 信毎メディアガーデン ホール



バスご利用の場合
JR松本駅前バスターミナルからアルピコ交通バス利用
【23番のりば】信大横田循環線「エア・ウォーターアリーナ松本」で下車。徒歩約3分。
【22番のりば】横田信大循環線「松本第一高校」で下車。徒歩約5分。

電車ご利用の場合
JR中央線・篠ノ井線 松本駅下車。松本駅からバス約20分。タクシー約15分。

お車の場合
松本インターより30分。

キッセイ文化ホールの駐車場（660台）は、隣接する松本市総合体育館と共用のため、大変混み合う場合がありますので、できるだけ公共交通機関をご利用下さい。

観能のお供に
キッセイ文化ホール2階にオープン！
『ソーシャルカフェ 花深 KASHIN』
営業時間 11:00～16:00
ランチ、パン、ケーキ、ドリンク等の販売サービスあり

関連企画 ❶

お能体験ワークショップ

能といえば「難しい」「わからない」「退屈そう」という先入観を持っておられる方は多いのではないでしょうか。
まずは、プロの能楽師の指導のもと、ご一緒に、扇子を持って演技をしてみたり、能面をつけてみたり、謡ってみたり、してみましょう。能はまずもって、見るより、自分でやるほうが、絶対に楽しめます。豊臣秀吉がハマった能楽を、ぜひあなたも体感してみてください。

講師：田茂井廣道
1月11日（月・祝）10:00～12:00
まつもと市民芸術館 オープンスタジオ
定員20名／参加無料（要事前申込）
動きやすい服装、白足袋か厚手のソックスをご持参ください。

関連企画 ❷

お能を楽しむための入門講座

お能の魅力全般について、講師2人がたっぷりとお話します。
公演と併せてどうぞ！

講師：田茂井廣道、木ノ下裕一
1月11日（月・祝）14:00～15:30
まつもと市民芸術館 オープンスタジオ
定員50名／参加料：500円（要事前申込）
※公演チケットをお持ちの方は無料

手話通訳付き

関連企画のお申込

申込開始：11月7日（土）10:00AM
まつもと市民芸術館チケットセンター（10:00～18:00）
［電話］0263-33-2200 ［窓口］まつもと市民芸術館1階
［WEB申込フォーム］

ワークショップ

入門講座



信濃でたっぷり楽しむ 能の会

一般発売
2026年 11/7（土） 10:00AM

チケット料金（全席指定・税込）

一般：4,500円
U25：1,500円（枚数限定・前売のみ）
障がい者割引：4,000円
※未就学児入場不可
※U25（25歳以下）チケットは、当日年齢確認証をご提示ください
※車椅子または補助犬を伴ってご入場の方は、チケットご購入時にまつもと市民芸術館チケットセンターまでお知らせください

《障がい者割引注意事項》
▸当日障害者手帳をご提示ください。
▸移動に介助が必要な方には、介助者1名につき一般料金の50%を割引いたします。ご一緒に入場してください。

プレイガイド

◆まつもと市民芸術館チケットセンター（10:00～18:00）
［TEL］0263-33-2200
［窓口］まつもと市民芸術館1階 ※発売初日は窓口販売なし
［WEB］https://www.mpac.jp（要事前会員登録）
◆キッセイ文化ホール（9:00～17:00）※発売初日は10:00から
［TEL］0263-34-7100
［窓口］キッセイ文化ホール1階管理事務所
［WEB］https://p-ticket.jp/naganobunka
◆チケットぴあ
［店頭］セブン-イレブン ［WEB］https://t.pia.jp/

お問合せ

まつもと市民芸術館チケットセンター（10:00～18:00）
TEL.0263-33-2200 FAX.0263-33-3830

主催：一般財団法人松本市芸術文化振興財団
共催：キッセイ文化ホール（長野県松本文化会館）
後援：松本市、松本市教育委員会
企画制作：まつもと市民芸術館

お能ってトビラのようなものだと思っています。

そのトビラをくぐってみれば――

まず、タイムトリップできます。いにしえの物語、人々の営み、生まれては死にまた生まれる命、数々の人生、喜怒哀楽までが生々しく迫ってきます。まさに今ここで起こっている、むかしの物語を、わたしたちは目撃します。

つぎに体感が変わります。ゆったりとした、時に激しい謡やお囃子に身をゆだねていると、わたしたちの身体を支配している現代のせわしないリズムがすーっと遠のいて、自分の鼓動、呼吸のリズムが意識されます。「ああ、わたしは生きているんだな」と思えます。

その上、このトビラは無限に広がっています。能は数々の古典や故事、歴史的な出来事を下敷きにして作られていますから、一曲の能の中に、無数のトビラが控えているのです。知的好奇心さえ失わなければ、「この能の原作はなんだろう？」「引用されている和歌の意味は？」「装束（衣裳）の色や模様にはどんな意味があるの？」というふうに、次々とトビラを開けたくなります。どのトビラもめくるめく日本文化の世界につながっています。トビラを開けつづけているうちに、迷子になります。そうなると、しめたものです。

「わたしは一体、誰だろう？」そう思うはずです。現代に生きるわたしたちとは遠った価値観、感覚、景色、世界の見え方……が身体に染みわたってきて、足元がゆらぎます。そして、それら、膨大な過去の上に、現代のわたしたちがあるのだということを発見します。

ぜひ、迷子になりにきてください。そして再び自分を発見しにきてください。

上演時間は休憩込みで四時間！　現代人からすると長いように思うかもしれませんが、やいやや、迷子の悦楽を感じるためには、それくらいの時間が必要なのです。



企画・進行
木ノ下裕一
（きのした ゆういち）

まつもと市民芸術館 芸術監督団団長、芸術監督［演劇部門］
1985年、和歌山市生まれ。小学校3年生の時、上方落語を聞き衝撃を受け、その後、古典芸能への関心を広げつつ現代の舞台芸術を学ぶ。2006年に古典演目上演の補綴・監修を自らが行う木ノ下歌舞伎を旗揚げ。代表作に「勧進成寺」『夏祭浪花鑑』『義経千本桜――渡海屋・大物浦――』『糸井版 摂州合邦辻』など。2016年に上演した『勧進帳』の成果に対して、2016年度文化庁芸術祭新人賞を受賞。第38回（2019年度）京都府文化賞奨励賞受賞。NHKラジオ『おしゃべりな古典教室』のパーソナリティーを務めるなど多岐にわたって活動中。セゾン文化財団2026年度セゾン・フェローII。

能の中のトビラを開けつづけて
ぜひ、迷子になってください！

ひらく 古典の トビラ

まつもと市民芸術館

「ひらく古典のトビラ」は、まつもと市民芸術館 芸術監督団団長 木ノ下裕一が企画する、どなたでも古典芸能を広く、深く楽しむためのプログラムです。

シリーズ第7弾は満を持して「お能」。

新年をことほぎ、**お能の魅力**にたっぷりと浸る**1日**をお届けします。

キッセイ文化ホールに能舞台を設置して、**信濃にゆかり**のある**演目**を中心に上演。

能楽師 **田茂井廣道**と**木ノ下裕一**のダブル解説付き、

原文・現代語訳字幕付き上演で、

能が初めての方も安心して、**「幽玄」の世界**をお楽しみいただけます。

まず何といっても「信濃」です。《望月》は信濃国の住人同士の争いごとを扱いますし（望月は名馬を輩出する土地ですね、《山姥》は善光寺へ向かう途中に起こる不思議な出来事を描きます。《柏崎》も善光寺へ向かう旅、《巴》は木曽義仲の家来・巴御前の物語です。

裏のテーマ、とでも申しましょうか、「仇討ち」もキーワードです。《小袖曽我》は曽我兄弟が仇討ちに出かける前の母への暇乞いの場面ですし、《放下僧》は《望月》と同じく芸で相手を油断させ見事に本望を遂げます。実は《富士太鼓》も仇討ちの要素が大きいのですが、《望月》が夫をなくした妻と男の遺児が出るのに対し、《富士太鼓》は女子なのですね。だから、仇を討てず、太鼓を打って、恨みを晴らす（ことにする）のです。ちなみに、富士（富士は夫の名）を討った仇は「浅間」といいます。《杜若》にも業平の東下りの「浅間の嶽」という語が出ます。）

また、全体を通して見ると、能の様々なタイプの演目を楽しむことができます。

能は「神男女狂鬼」という、五番立てに分類ができます。初番目もの、神の能《高砂》、二番目もの、修羅もの、武人を扱った演目《巴》、三番目もの、鬘もの、恋を扱うような曲《杜若》、四番目もの、物狂い、人生狂ってしまった人のドラマ《柏崎》《富士太鼓》《小袖曽我》《蝉丸》《放下僧》《望月》、五番目もの、鬼の能《山姥》、

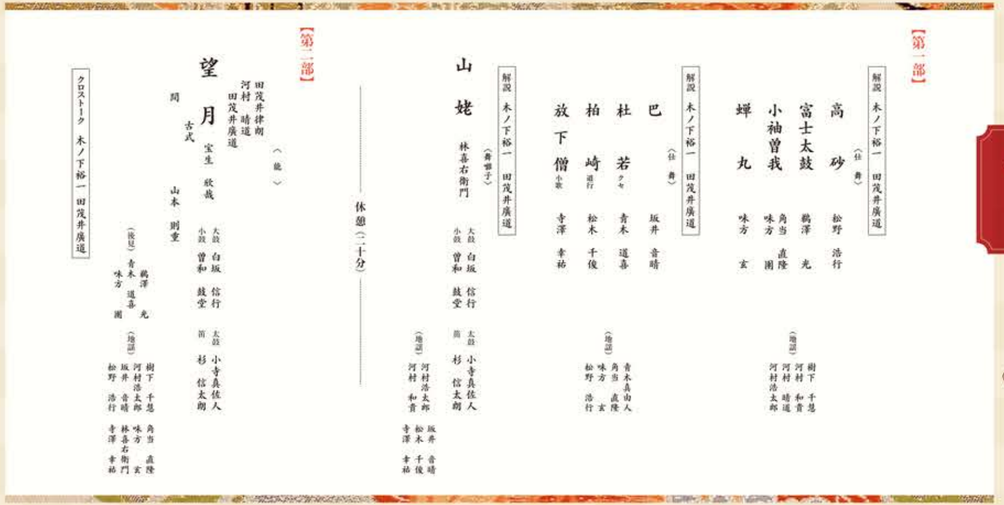
能といえば、スローで、難解で、退屈なもの、と思い込んでおられる方がもしおられたら、ぜひこの公演に来ていただきたいです。木ノ下裕一氏の解説と共に、「目からウロコ」を落として差し上げたいと存じます！

能といえば、スローで、難解で、退屈なもの、と思い込んでいませんか？



構成・出演
田茂井廣道
（たもい ひろみち）

1970年生まれ。能楽シテ方観世流能楽師。準職分。重要無形文化財（能楽）保持者。
十三世、十四世林喜右衛門師に師事、3歳にて初舞台。2005年に大曲《道成寺》、2009年《望月》、2019年《屋島 弓流》、2023年《安宅 勧進帳》を披くなど、能の上演多数。2014年豊岡市民プラザにおいて新作能《田道間守（たじまもり）》の製作、脚本を担当。海外公演にも多数参加多数。
京都・三田・横浜にて社中の会「碧道会」を主宰、公益社団法人能楽協会京都支部常議員。同教育特別委員。京都大学能楽部観世会講師。京都芸術大学非常勤講師。能の普及のため、あらゆる世代に向けたワークショップを意欲的に実施している。



【第一部】

解説 木ノ下裕一　田茂井廣道

高砂（仕舞）　松野 浩行
富士太鼓　鵜澤 光
小袖曽我　角当 直隆　味方 團
蟬丸　味方 玄

解説 木ノ下裕一　田茂井廣道

巴（仕舞）　坂井 音晴
杜若　青木 道喜
柏崎　松木 千俊
放下僧（舞囃子）　小歌 寺澤 幸祐

解説 木ノ下裕一　田茂井廣道

山姥（舞囃子）　林喜右衛門　大鼓 白坂 信行　小鼓 曽和 鼓堂　太鼓 小寺眞佐人　笛 杉 信太朗
（地謡）　河村浩太郎　河村和貴　寺澤 幸祐　坂井 音晴　松木 千俊

【第二部】

望月　宝生 欣哉　大鼓 白坂 信行　小鼓 曽和 鼓堂　太鼓 小寺眞佐人　笛 杉 信太朗
古式
（後見）　鵜澤 光　青木 道喜　河村浩太郎　林喜右衛門　坂井 音晴　寺澤 幸祐
（地謡）　樹下 千慧　河村 晴道　角当 直隆　味方 玄　味方 團　松野 浩行
問　山本 則重

クロストーク　木ノ下裕一　田茂井廣道

休憩（二十分）

（能）

田茂井律朗
河村 晴道
田茂井廣道

信濃でたっぷり楽しむ 能の会

ひらく 古典の トビラ 其の7

2027年 1/24（日）

開演13:00
（開場12:15／上演時間4時間予定）

キッセイ文化ホール 大ホール

聞こえない 聞こえにくい方への 鑑賞サポート

日本語字幕
舞台上字幕▶本編では舞台上部に原文、現代語訳の字幕が表示されます（※客席の8列目が最前列で、字幕が見やすい席は13列目あたりから後ろとなります）。

手話通訳
手話通訳▶解説やクロストークには舞台上字幕の他、手話通訳が付きます。

能《望月》あらすじ

近江国守山宿の「甲屋」に、いわくありげな親子連れが旅宿する。甲屋亭主の小澤友房は、その二人が、かつて自らが仕えた主君で、望月秋長に討たれた信濃国の安田友治の妻と子息であると気づく。そんな折に、敵の望月秋長の一行も甲屋に泊まり合わせる。友房達は、この機会を逃すまいと策をめぐらし、「獅子」の舞を舞って相手を油断させたのち、見事にあだ討ちを果たす。

ワキ
宝生欣哉
（ほうしょう きんや）

ワキ方下掛宝生流13世宗家、重要無形文化財能ワキ方各個指定保持者（人間国宝）。1967年東京に生まれる。父・宝生閑（人間国宝）および祖父・宝生弥一（人間国宝）に師事、8歳「猩々乱」で初舞台。父譲りの落としたただずまいと存在感で、関東だけでなく関西でも高い評価を受けている。海外公演にも多数参加、2000年度 芸術選奨文部科学大臣新人賞受賞。



能《望月》

舞囃子《山姥》あらすじ

善光寺を目指して旅する遊女が、息をのむような深い山奥の神秘的な世界に住む鬼女と出会う。

シテ
林喜右衛門
（はやし きえもん）

能楽師シテ方観世流職分 林家当主。十四世 林喜右衛門。1979年京都市生まれ。
父 十三世林喜右衛門、及び二十六世観世宗家 観世清和に師事、3歳で鞍馬天狗の花見役にて初舞台。京都を拠点に活動。京都・岡山・東京・鳥取の能楽教室"松響会"にて謡と舞の指南にあたる。次世代への能楽普及を目的とし、「林能楽会定期公演SHITEシテ。」「90分で能観劇 KYOTO de petit能」を開催。自主企画公演「宗一郎の会」「喜右衛門の会」は京都と東京にて開催、精力的に活動している。